

○大川尚子²⁾、北田仁彦¹⁾、清水昌寿¹⁾、坂井潤太¹⁾、
松井健一郎¹⁾、山口宣夫¹⁾、鈴木信孝³⁾ (金沢医
大・血清学¹⁾、石川天然薬効物質研究センター²⁾、金沢
大学・医・産婦人科³⁾)

【目的】 *Agaricus blazei* Murill (以下、*Agaricus*)
等きの子類の免疫賦活作用を検討する中で、同系移植
腫瘍 (EL-4 細胞) を用いた動物実験系で抗腫瘍活性を
認め報告した。しかし、きの子類の抗腫瘍作用を初め
とする経口の免疫賦活作用の機序については不明な点
が多く報告も少ない。今回、きの子類が含有する多糖
体に着目し、きの子類による補体系副系路の活性化、
さらには補体成分による免疫系細胞の賦活機作につい
て検討した。

【方法】 正常健康人から採血し、実験を通して同一
試料を得た。子実体及びその培養菌糸体を用いて血清
と反応させた。補体系活性化の程度は免疫電気泳動法
による沈降線の形成から判定した。

【成績と考察】 *Agaricus* によるヒト C3 活性化の時
間依存性を C3 と Bf の両成分で検討した。即ち、血清
1ml に *Agaricus* 1mg を加え反応時間を変えた結果、両
成分共、反応時間 30 分ですでにヒト補体系の副経路を
介した活性化分子が認められた。ヒト末梢有核細胞と
C3-*Agaricus* 複合体を混合し、37°C、4 時間培養した
後、FITC 標識抗ヒト C3 抗体で染色した結果、単核球
細胞質内に C3-*Agaricus* 複合体の食食像が認められた。

以上の成績から、経口投与されたヒト補体系は副系
路を介した活性化能を有することが示され、今後抗腫
瘍性並びに感染防御の面から検討する。